

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K12191

研究課題名(和文)高齢者ケア施設における看護・介護の専門職QOLの構造

研究課題名(英文)Structure of Professional QOL for Nursing in Elderly Care Facilities

研究代表者

谷口 好美(Taniguchi, Yoshimi)

金沢大学・保健学系・准教授

研究者番号：50280988

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、看護・介護職に特有な専門職QOL(共感疲労・共感満足)の概念構造を明らかにすることである。質問紙調査により、強いストレスを感じた経験から<専門職として脅かされる体験><本来の仕事ができない状況><専門職として許容できない職場環境><否定的感情の発現・持続>を抽出した。また、概念分析により、共感疲労の前提として看護師側の共感能力、属性に無自覚な共感の発生、疲労の蓄積、心身の消耗、帰結として看護師のパフォーマンス低下、不可逆的に仕事への復帰が困難、離職に至ることが示された。共感満足では11項目(健康、満足、報酬、達成感、喜び、希望など)抽出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護・介護職の専門職QOLの構成要素に共感疲労がある。一般的に対人援助職は他者に対する共感性・思いやりが必要とされる職種である。共感疲労は共感能力がネガティブに作用、専門職の心身の消耗、離職のリスク要因となるため解明が必要である。離職予防のために、現在のところ専門職QOL(ProQOL)の尺度で対人援助職の共感疲労の評価は可能である。しかしながら、高齢者ケアにおいては認知症高齢者の対応など、特有な共感疲労については研究が少なく、十分解明されているとはいえない。ケアに携わることで無自覚に受けるストレスや、心身の変調を予測し、専門職のメンタルヘルスに活用できると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the conceptual structure of professional QOL of nurses and caregivers; compassion fatigue and compassion satisfaction. In the questionnaire survey, the experiences of nurses and caregivers who experienced strong stress were extracted; professional threats, professional obstacles, unacceptable work environments, and persistent negative emotions were extracted. Conceptual analysis showed that the premise of empathy fatigue is the empathy of nurses, the attributes are the occurrence of unconscious empathy, accumulation of fatigue, mental and physical fatigue, and the consequences are decreased performance of nurses, inability to return to work, and turnover. Empathy satisfaction was identified in 11 items; health, satisfaction, reward, sense of accomplishment, joy, hope.

研究分野：高齢者看護

キーワード：高齢者ケア 専門職QOL 共感疲労 共感満足 看護職 介護職

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢者ケアの質の維持・向上を目指すためには、看護・介護の専門職への支援を行い、心身の消耗による離職を防止することが求められる。病院・高齢者ケア施設において、虚弱(フレイル)や認知症の心理行動症状により、日常生活上の自立が困難なことに加えて、医療依存度の高い高齢者も増加しつつある。こうした高齢者を同時に複数見守ることが求められる緊迫した環境では、高齢者や看護者自身に対して否定的な感情が生じやすい(谷口,2006)。介護職の研究では、メンタルヘルスに問題を抱えている人が7割と多職種に比べて高く、仕事上の責任の増大や高齢者との人間関係により、離職の要因となることが示唆されている。

専門職の仕事による心身の消耗と満足感のバランスに着目した理論として、「専門職 QOL (Professional Quality of Life)」がある。専門職 QOL は、医療者、教育者、カウンセラーなど対人サービスで人と深く関わることで生じる心身の消耗や、感情労働をともなう業務に従事する専門職としての生活の質に焦点をあてている。Stamm の専門職 QOL の理論では、「共感疲労 (Compassion Fatigue)」と「共感満足 (Compassion Satisfaction)」の2つの概念があり、「共感性労」はさらに「バーンアウト (Burnout)」、「二次性トラウマ・ストレス (Secondary Traumatic Stress)」で構成されている (Stamm,2009)。共感疲労とは、専門職がストレスフルな出来事に長期に曝され、疲弊状態になることであり、離職率との関連性が示唆されている。

主に、虐待を受けた人のケアや救命救急士など、トラウマを抱えた対象に関わることで心身に影響を受けやすい専門職が想定されており、「Professional QOL 尺度 (ProQOL 尺度)」が開発されている。共感疲労の概念について、日本の看護・介護の専門職の場合でも適用できるのか、文化的背景の違い等、現状を踏まえて概念を検討する必要があると考えた。本研究では、病院・施設に勤務する看護職・介護職がストレスと認識している出来事と背景から、共感疲労の現状を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の目的

看護・介護の専門職 QOL の構造を明らかにするために、以下の目的で実施した。

- 1)病院・施設に勤務する看護職・介護職がストレスと認識している出来事と背景から、共感疲労の現状を明らかにする。
- 2)高齢者ケアに特有の専門職 QOL を概念分析により明らかにする。

3. 研究の方法

1)病院・施設に勤務する看護職・介護職の共感疲労の現状

(1)データ収集方法

対象は、北陸の一般病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム勤務の看護職、介護職とした。データ収集方法は、2016年に郵送法による無記名自記式質問紙調査を行い、基本的属性、

自由記載で「ケアに携わり強いストレスを感じた出来事」の記述を求めた。倫理的配慮として、金沢大学医学倫理審査委員会で承認後実施した。施設の同意を得て、対象者への依頼文に研究参加の自由・匿名性の確保、結果の公表方法を記載、質問紙の返送で同意とみなした。

(2) データ分析方法

基本的属性は単純集計、自由記載「ケアに携わり強いストレスを感じた出来事」の記述を要約してコード化、コードの類似性によりカテゴリー化を行った。

2) 高齢者ケアに特有の専門職 QOL 概念分析

(1) データ収集方法

専門職 QOL の主要概念「共感疲労 (Compassion Fatigue)」「共感満足 (Compassion Satisfaction)」の文献検討を行った。共感疲労の文献を収集するために、文献検索データベース (CINAHL, MEDLINE, 医学中央雑誌 Web) を使用し、2004 年～2019 年に公表された文献を分析対象とした。分析方法は概念分析を参考に、文献の記述から共感疲労の定義、前提、帰結にあたる記述を抽出し、高齢者ケアへの適用を検討した。

4. 研究成果

1) 病院・施設に勤務する看護職・介護職の共感疲労の現状

対象は 290 名 (回収率 66.8%, 有効回答率 99.3%), 女性 266 名 (91.7%), 平均年齢 40.5 ± 10.1 歳, 看護職 256 名 (88.3%) 介護職 29 名 (10.0%), 職務経験年数平均 16.5 ± 9.4 年, 転職経験あり 178 名 (61.4%) であった。87 名の自由記載の記述より、看護職・介護職の共感疲労を表す 4 つのカテゴリーを抽出した。以下、カテゴリーを < >, サブカテゴリー「」で示した。

1. < 専門職として脅かされる体験 > : 「クレーム, 暴力, 暴言を受ける体験」「無力を感じる体験」「適性がないと認識させられる体験」, 2. < 本来の仕事ができない状況 > : 「不本意な役割・責任を負う」「活かしきれない専門性」「人員不足によるしわ寄せ」「それだけの仕事をして評価されない」, 3. < 専門職として許容できない職場環境 > : 「職種間の軋轢」「必要なサポートが期待できない環境」「落ち着いて役割を果たせない環境」「役割の重圧感」, 4. < 否定的感情の発現・持続 > : 「嫌悪感・拒絶感」「ケアが十分できなかったという後悔」「焦り・情緒不安定」「専門職としての行き詰まり」を抽出した。

< 専門職として脅かされる体験 > は看護・介護職自身が患者や医療者・同僚との関わりにおいて自己が脅かされる体験であり、共感疲労の下位概念である二次性トラウマとの関連も示唆され、主要な概念として検討する必要があると考える。また、< 本来の仕事ができない状況 > < 専門職として許容できない職場環境 > は環境要因であり、専門職としての自尊心の低下や、疲弊を助長し、< 否定的感情の発現・持続 > が共感疲労となっている可能性があることが示唆された。

2) 高齢者ケアに特有の専門職 QOL 概念分析

共感疲労に関する研究では、文献検索データベース (CINAHL, MEDLINE, 医学中央雑誌 Web) を

使用し、2004～2022年までに公表された文献から35文献を分析対象とした。

共感疲労の研究で、対象の分野ではがん看護、小児看護、救急看護、老年看護であった。背景として、これらの分野では生命の危機に直面する体験、完治が困難なために長期間ストレス状態にある患者のケアに従事することから、共感疲労が可視化されやすいことが考えられた。

看護師の共感疲労の前提として、看護師側の能力（患者に対する共感性や思いやり）があることが挙げられた。病気や災害で強いストレスを受けた患者の援助を行うことによる共感反応にはネガティブな側面があり、無自覚に、長期に曝されることで疲労の蓄積、身体的・心理的に消耗した状態となり、帰結としては看護師のパフォーマンス低下、多様な身体的・心理的症状から不可逆的に仕事への復帰が困難となり、離職に至ることが示された。共感疲労の研究では、ProQOL（Stamm, 2009）の尺度を使用し、二次的トラウマティック・ストレス（ST）、バーンアウトと同義で使用されていることも多かった。共感疲労を臨床に適用するためには、高齢者ケアに特有な定義として明確化が必要であると考えられる。一般病院の看護師の約90%がSTを体験（Komachi, 2012）という調査結果もあることから、看護師のメンタル・ヘルスや離職防止のために高齢者ケアに特化した共感疲労について究明が求められる。

一方、共感満足概念分析の研究は3文献であり、患者やその家族と関わった結果の看護師側のポジティブな反応として11項目（健康、満足、報酬、達成感、喜び、希望など）抽出した。看護師の共感満足は研究としては少なく、看護師の共感疲労と併せてさらに検討が必要である。

共感疲労は、看護師の健康を脅かすリスクであり、離職に至る危険性がこれまでも示唆されてきた。他者への共感性は看護師の能力として不可欠なものであり、副反応である共感疲労を可視化することで、看護師のメンタルヘルスに貢献できるよう検討していく必要がある。

高齢者ケアにおいても、認知症高齢者のケアやエンドオブライフ・ケアに継続的に関わるため、共感疲労の発生リスクが高い可能性があり、看護師の離職の要因として今後の研究が必要であると考えられる。

[引用・参考文献]

谷口好美(2006)医療施設で認知症高齢者に看護を行ううえで生じる看護師の困難の構造,日本老年看護学会誌,11(1), pp.12-20.

福森崇貴, 後藤豊実, 佐藤寛(2018).看護師を対象としたProQOL日本語版(ProQOL-JN)の作成, 心理学研究, 89(2), 150-159.

Stamm, B.H. (2009). ProQOL Measure, <https://proqol.org/proqol-measure>.

Cross, L.A. (2019). Compassion Fatigue in Palliative Care Nursing: A Concept Analysis. *Journal of Hospice & Palliative Nursing*, 21(1), 21-28.

Peters, E. (2018). Compassion fatigue in nursing: A concept analysis. *Nursing Forum*, 53(4), 466-480.

Komachi, M.H., Kamibeppu, K., Nishi, D., Matsuoka, Y. (2012) Secondary traumatic stress and associated factors among Japanese nurses working in hospitals, *International Journal of Nursing Practice*, 18(2), 155-63.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 野上睦美, 谷口好美	4. 巻 22
2. 論文標題 高齢者ケアにおける看護師のストレスに関する文献レビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金城大学紀要	6. 最初と最後の頁 7~18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 谷口好美, 野上睦美, 久世淳子
2. 発表標題 高齢者ケアに特化した看護師の共感疲労の文献検討
3. 学会等名 日本老年看護学会第26回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野上睦美, 谷口好美
2. 発表標題 高齢者ケアにおける看護師のストレスに関する文献レビュー
3. 学会等名 日本看護科学学会第41回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野上睦美, 谷口好美
2. 発表標題 看護師の共感疲労の予防に向けた共感満足に関する文献検討 近接概念との比較に焦点をあてて
3. 学会等名 日本看護科学学会第39回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshimi Taniguchi, Mutsumi Nogami
2. 発表標題 Literature review of nurse specific compassion fatigue
3. 学会等名 The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷口好美、野上睦美、水野真希
2. 発表標題 病院・高齢者ケア施設に勤務する看護・介護職の共感性疲労
3. 学会等名 日本老年看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野上睦美、谷口好美、水野真希
2. 発表標題 看護師のケアに関連した満足感の内容分析から求める共感性満足概念要素
3. 学会等名 日本看護研究学会第43回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷口好美、野上睦美、水野真希
2. 発表標題 看護・介護職の共感性疲労の検討
3. 学会等名 第36回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 谷口好美, 真田弘美, 正木治恵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 486
3. 書名 看護学テキストNiCE老年看護学技術改訂第3版 最後までその人らしく生きることを支援する	

1. 著者名 谷口好美, 岡本恵理, 鈴木みずえ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 248
3. 書名 認知症plus転倒予防 せん妄・排泄障害を含めた包括的ケア	

1. 著者名 谷口好美, 亀井智子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 サイオ出版	5. 総ページ数 267
3. 書名 疾患別看護過程セミナー 下巻	

1. 著者名 亀井 智子、小玉 敏江、谷口好美 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 378
3. 書名 高齢者看護学 第3版	

1. 著者名 黒田裕子、谷口好美 他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日総研出版	5. 総ページ数 493
3. 書名 ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂第4版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水野 真希 (Mizuno Maki) (60547181)	日本赤十字看護大学・看護学部・講師 (32693)	平成30年2月6日削除
研究分担者	野上 睦美 (Nogami Mutsumi) (20584353)	金城大学・看護学部・講師 (33306)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------